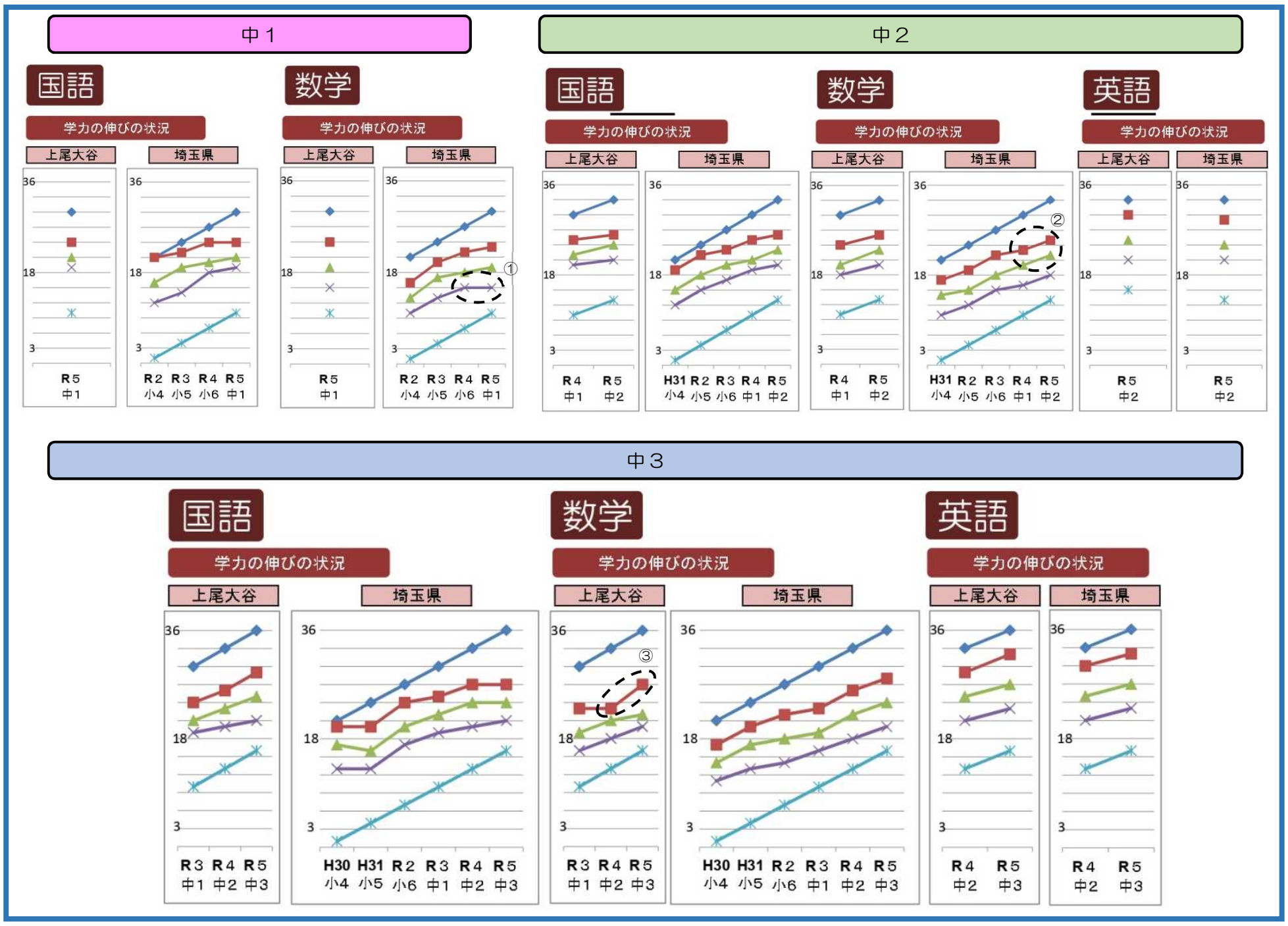
令和５年度　上尾市立大谷中学校

# 本校の県学調の結果について

教務主任　小川和浩

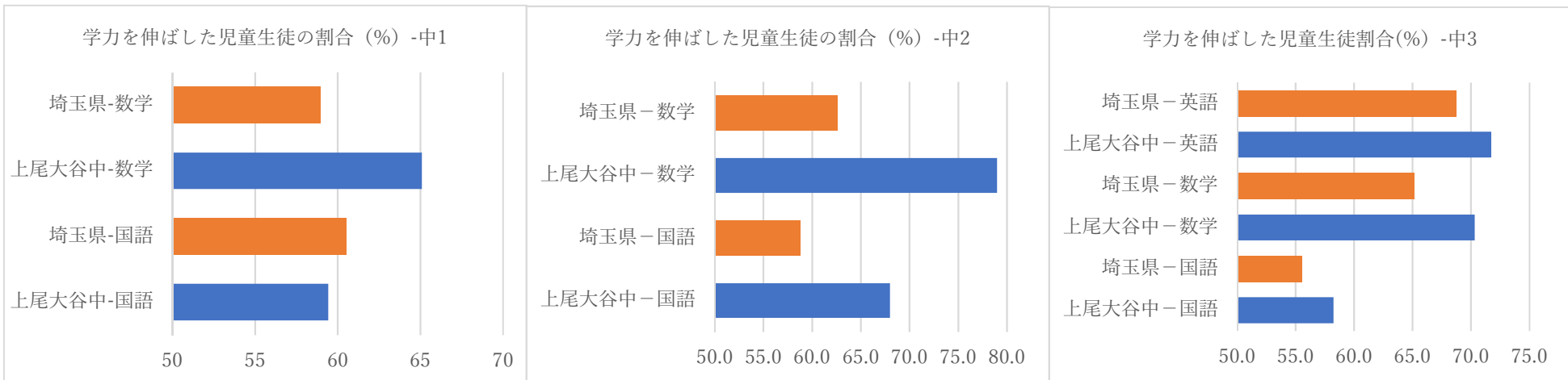
埼玉県の中学校では、中学１年生から３年生を対象に、国語・数学・英語・質問紙の調査を実施しています。今年度は、５月11日(木)に実施し、７月に結果(個票)を返却いたしました。

本調査は、「学習した内容がしっかりと身についているのか」という今までの視点に「一人一人の学力がどれだけ伸びているのか」という視点を加えることで、子供たちの成長していく姿が見える調査となっています。

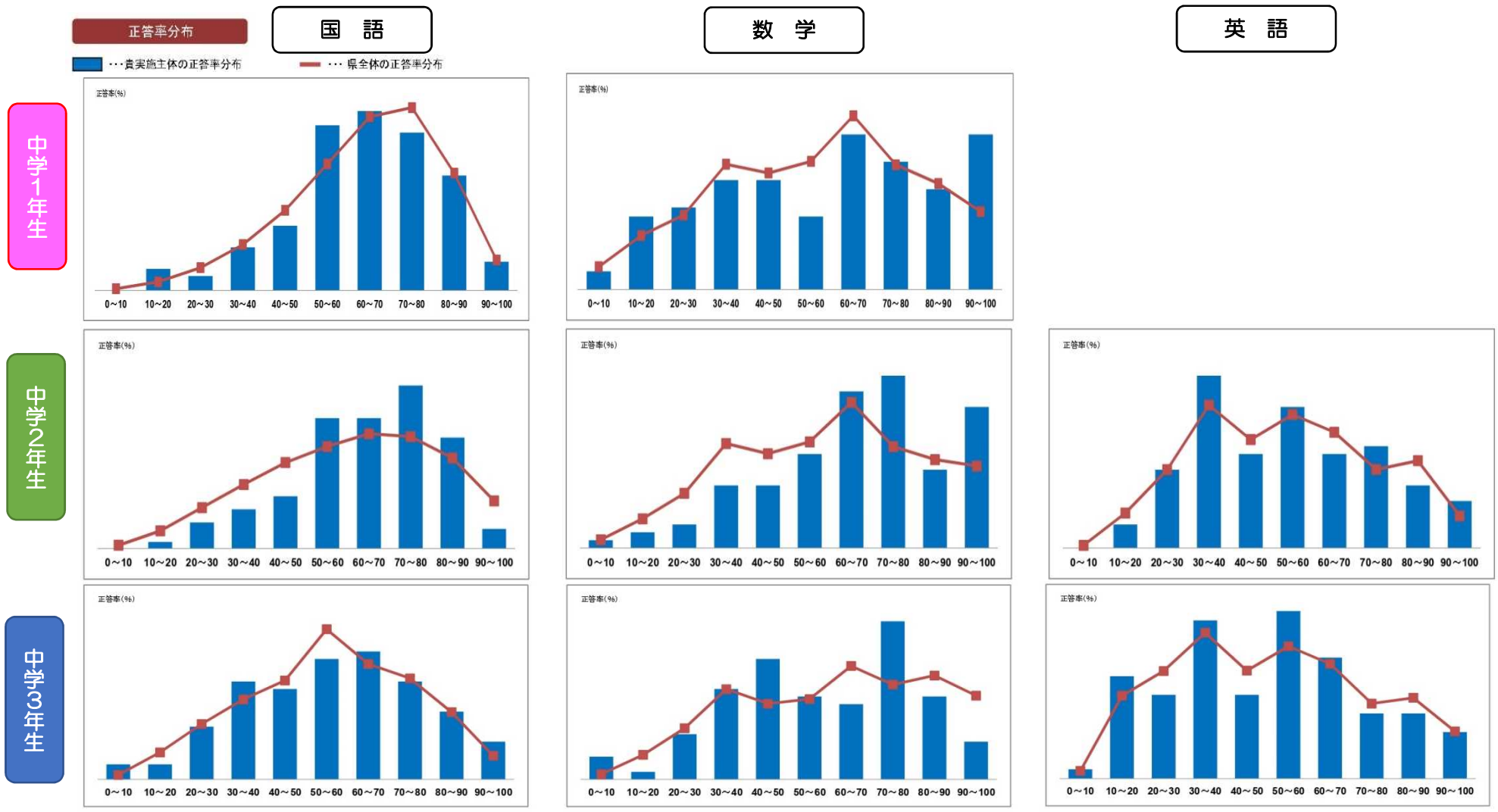



上記のグラフは、「学力が（中学１年生～中学３年生まで）どれだけ伸びたか」、を学力層別に示したものです。（それぞれのグラフの一番上から◇上位層、□中上位層、△中位層、×中低位層、＊低位層）

例えば、中学１年生の数学では中低位層で中学１年生の数学の中上位層で学力の伸びが低迷し（①）、中上位層と中位層で県平均より下回っていること(②)が、中学３年生の数学の中上位層は、昨年度から大きく学力が伸びているのが分かります(③)。




学力を伸ばした生徒の割合も、上記のグラフから各学年「学力を伸ばした生徒の割合」は、中学１年生〔国語:59.4%（県平均から-1.1%）、数学:65.1%（県平均から+6.2%）〕、中学２年生〔国語:68.0%（県平均から+9.2%）、数学:79.0%（県平均から+16.4%）〕、中学３年生〔国語:58.2%（県平均から+2.7%）、数学:70.3%（県平均から+5.2%）、英語 71.7%（県平均から+3.0%）〕の多くの教科で県平均を上回っています。




【学年別結果の概要】

| | 国　　語 | 数　　学 | 英　　語 |
|---|---|---|---|
| 中学1年生 | ・教科全体の正答率【大谷中:63.6%(県平均+0.2%)】は、ほぼ県平均と同等だった。<br>・特に「ウ、話すこと・聞くこと・書くこと」(県平均+1.8%)、「エ、読むこと」(県平均+2.1%)に関して、大きく県平均を上回った。 | ・教科全体の正答率【大谷中:58.8%(県平均+2.4%)】は、県平均を上回っていた。<br>・正答率 50-60%の生徒が県平均より少なく、正答率 90-100%の生徒が県平均を大きく上回った。 | |
| 中学2年生 | ・教科全体の正答率【大谷中:63.8%(県平均+3.6%)】は、県平均を上回った。<br>・特に「ア、言葉の特徴や使い方」(県平均+5.5%)については、県平均を大きく上回った。 | ・教科全体の正答率【大谷中:66.5%(県平均 7.5%)】は、県より大きく上回った。<br>・特に「ウ、関数」(県平均+10.5%)については、県平均を大きく上回った。<br>・正答率 70-100%までの生徒が県平均より多い人数を占めている。 | ・教科全体の正答率【大谷中:53.3%(県平均±0%)】は、県と同等である。<br>・「ア、聞くこと」(県平均+2.0%)、「ウ、話すこと」(県平均+4.1%)は、全体的に県平均に上回っている。「イ、読むこと」「書くこと」が課題である。 |
| 中学3年生 | ・教科全体の正答率【大谷中:56.3%(県平均+1.0%)】は、ほぼ県平均と同等だった。<br>・特に「ウ、話すこと・聞くこと・書くこと」(県平均+4.1%)に関しては、県平均を上回った。「イ、情報の扱い方、我が国の言語文化」(県平均-5.7%)などに関して、県平均を下回った。 | ・教科全体の正答率【大谷中:58.5%(県平均-2.3%)】は、県平均より下回った。<br>・特に「ア、数と式」(県平均-2.7%)、「ア、数と式」(県平均-4.4%)については、県平均を下回った。<br>・上位層に関しては、県平均を下回っていた。 | ・教科全体の正答率【大谷中:49.4%(県平均-1.0%)】は、県より下回った。<br>・特に「エ、核こと」(県平均-5.4%)に関しては、県平均を大きく下回った。<br>・正答率 40-50%が県平均を大きく上回った。二極化している。 |

【今後の課題・手立て】

| | 国　　語 | 数　　学 | 英　　語 |
|---|---|---|---|
| 中学1年生 | ・現代文法や漢字においては、正答率は県と同等か、上回っている。<br>・主人公や筆者の心情を考えたり、説明が適切かという問では無回答も 10%以上である。読解力の更なる強化が重要である。 | ・全領域や各評価、問題形式においても県平均を上回っている。<br>・問題の指示に従って解答することや身近な事象においての問に関して、無回答が目立った。自身の解答以外の課程を理解する思考の柔軟さが今後重要になる。 | |
| 中学2年生 | ・全領域や各評価、問題形式においても県平均を上回っている。問題全体的には、無回答割合は低かった。言葉の特徴や意味では、県平均を上回っている。登場人物の気持ちに至る言葉の読み取りに長けている。 | ・全領域について県平均を大きく上回っていう。特に数と式、関数、データの活用では、県平均を 10 ポイント以上である。<br>・図形では、無回答率が県平均よりも高いため、苦手意識を持っている生徒がいる。 | ・聞くこと、話すこと(発表・やりとり)に関して、県平均を上回っている。<br>・英作文に関しては、無回答が 25%に昇る。書くことに苦手意識をもつ生徒が多いため、今後強化の必要ある。 |
| 中学3年生 | ・言葉の特徴や使い方、話すこと・聞くこと・書くことで、県平均を上回っている。<br>・文章の構成や読み解くことに関して、無回答が多く、課題がある。知識・技能は県平均程度であるが、今後は文章中の情報を整理したり、心情を読み解くことが重要である。 | ・全領域で、県平均から大きく下回っている。基礎・基本から自ら活用できる力の強化が必要である。確率や証明など論理的に思考する問題で無回答が目立った。解答の課程を大切にする必要がある。 | ・聞くこと、読むこと、話すことは、県平均程度であるが、書くことに関しては県平均を大きく下回っている。無回答も 30%を越えているため英作文を苦手とする生徒の割合が高い。授業の中で英文を書くことが必要である。 |